
 学 会 記 事

第3回新潟クリニカルパスフォーラム

日 時 平成 16 年 12 月 3 日 (金)
午後 5 時 45 分～
会 場 新潟大学医学部
有壬記念館 2 階 大会議室

I. 一 般 演 題

1 新潟大学医歯学総合病院における CAPD 医療チームとクリニカルパス

1) 医師部門：「SMAP による CAPD 導入の意義と CAPD 医療チームの関わり」

丸山 弘樹・首村 守俊・下条 文武
新潟大学医歯学総合病院第二内科

2004 年, CAPD 医療チーム (医師, 看護師, 薬剤師) を結成した。SMAP は, カテーテル留置・埋没術を行い, 3 週間以上経過してから, 出口部作成術を行って, 段階的に CAPD に導入する方法である。医師は, SMAP の前から患者と関わり, カテーテル留置・埋没術の時期を読み誤らないようにすることが重要である。予めカテーテルを留置してあるので腎不全の進行に応じて計画的に CAPD へ導入できること, 初回から治療量の透析液を腹腔内に注入できるのでコンディショニングが不要であることから入院期間を短縮できること, 初回から患者がバッグを交換できることなどが期待できる。このような利点を活かすために, SMAP のクリニカルパスを作成した。これに基づいた CAPD への導入が円滑に行われるようになった。チームを結成したことで, 医師・看護師・薬剤師の連携が円滑に行われるようになった。第一外科から心温まる支援をいただき, 患者数

(CAPD 患者, カテーテル留置・埋没術患者) は, 2004 年当初の (3 人, 2 人) から 11 月には (12 人, 4 人) へと増加している。今後も明るく楽しい CAPD 医療チームとして, 成長していきたいと考えている。

2) 病棟看護師部門：「CAPD クリニカルパス作成の経緯」

大桃 恭子・長谷川伊里子・林 里実
池 睦美
新潟大学医歯学総合病院西館 11 階病棟

当科では, 3 年程前から CAPD クリニカルパス作成を始めた。2004 年の 2 月に CAPD 外来が開設され, CAPD 導入患者が増加しパスの必要性を痛感した。更に薬剤師の介入により, 医師, 外来看護師, 病棟看護師, 薬剤師の 4 部門が「CAPD を導入する患者様に導入後の生活に必要な知識を習得し, 導入前と変わらない個々の生活を送ってもらう」ことを目標に動き始めた。

その結果, SMAP クリニカルパスを再考し「服薬指導」「外来看護師にも指導したら記入してもらう」欄を設けた。

今後の課題は, パスのバリエーション分析を行い, 更なる検討を行なっていくこと, スタッフが変わっても同じようにパスが熟知してもらえるよう関わっていくことと考える。また, 退院時に病棟看護師から外来看護師へ引継ぎを行うことで退院後も患者様が一貫した看護が受けられる体制を整えていきたい。

3) 薬剤師部門：「CAPD 導入クリニカルパスと薬剤師」

小林 泰子・小野田学時・坂爪 重明
笹原 一久・佐藤 博
新潟大学医歯学総合病院薬剤部

当院第二内科病棟では, H16 年 8 月より, 病棟担当薬剤師が CAPD 導入クリニカルパスに参加をし, カテーテル留置・埋没術時, 出口部作成時に服薬指導を行っています。薬剤師による服薬指